

オープニングプレゼンテーション3

テーマ 地方自治体からのメッセージ

～地方行政マンの微笑みと悲しみ～

神栖市 医療対策監 藤枝昭司

令和6年10月13日

鹿嶋市入会カード

お下りこみお祭

鹿嶋市観光協会

連携 協働

定義

各自の役割や任務を全力で行う
協力して新しい世界を創る

今日の話題

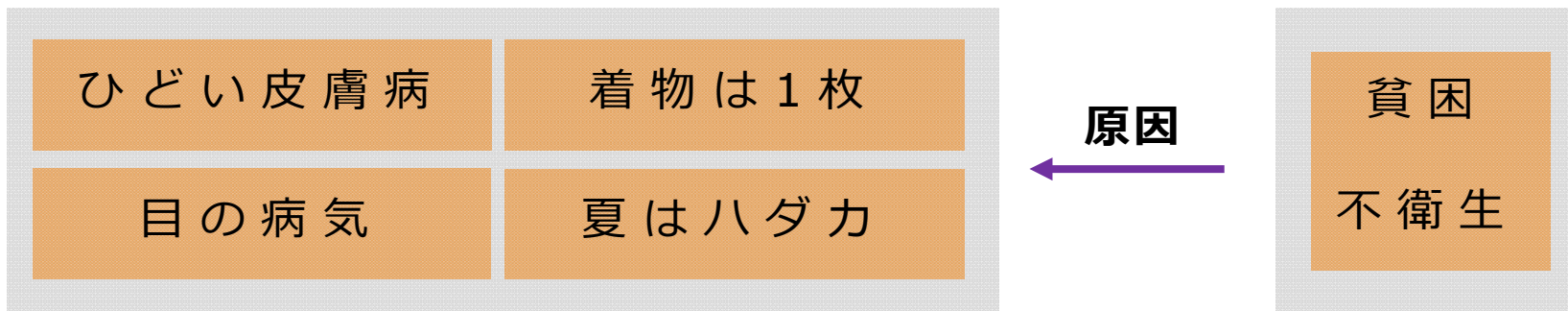
- I はじめに 04
- II 若手医師・医学生の皆さんへのメッセージ 05
 - 1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために
 - ① 地方自治体を知る
 - ② コラボするパートナーとして期待されることは？
 - 2 本日参加している地方行政マンを代表して
 - ① 思う存分活躍していただくために
 - ② 問題の所在は？
 - ③ ナショナルミニマムとしての医療システムの構築
- III 結びに 12

I はじめに

- ・ イザベラ・バード著「日本奥地紀行」

英国人女性が、明治11年（1878年）6月～9月に
日光～東北～北海道を旅した紀行文

- ・ 描写されている地方の暮らし



明治 7年 医制 制定

明治 22年 市制・町村制 制定

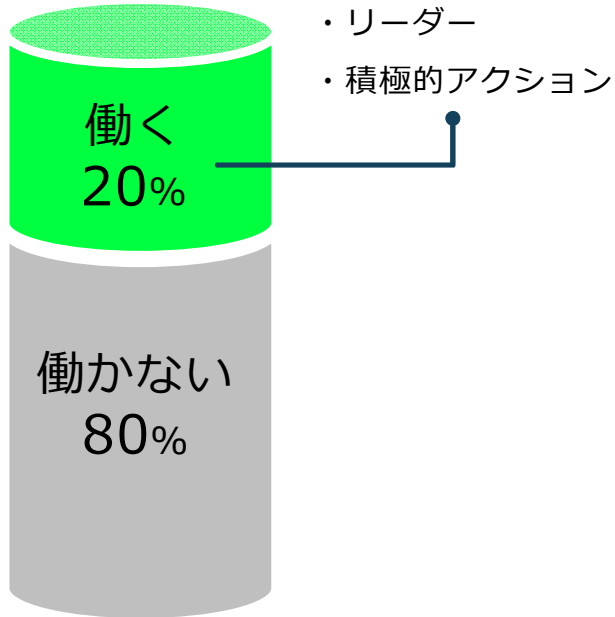


Ⅱ 若手医師・医学生の皆さんへのメッセージ

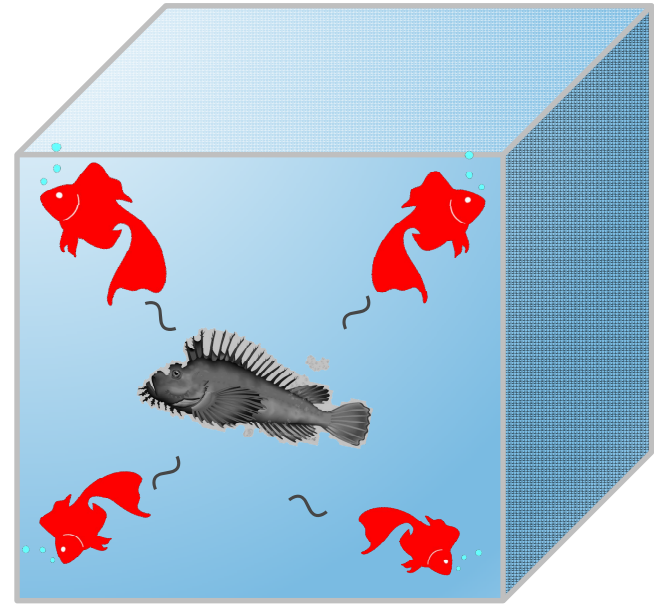
1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために

① 地方自治体を知る（その1 組織論から）

・みつばち理論



・オコゼ理論

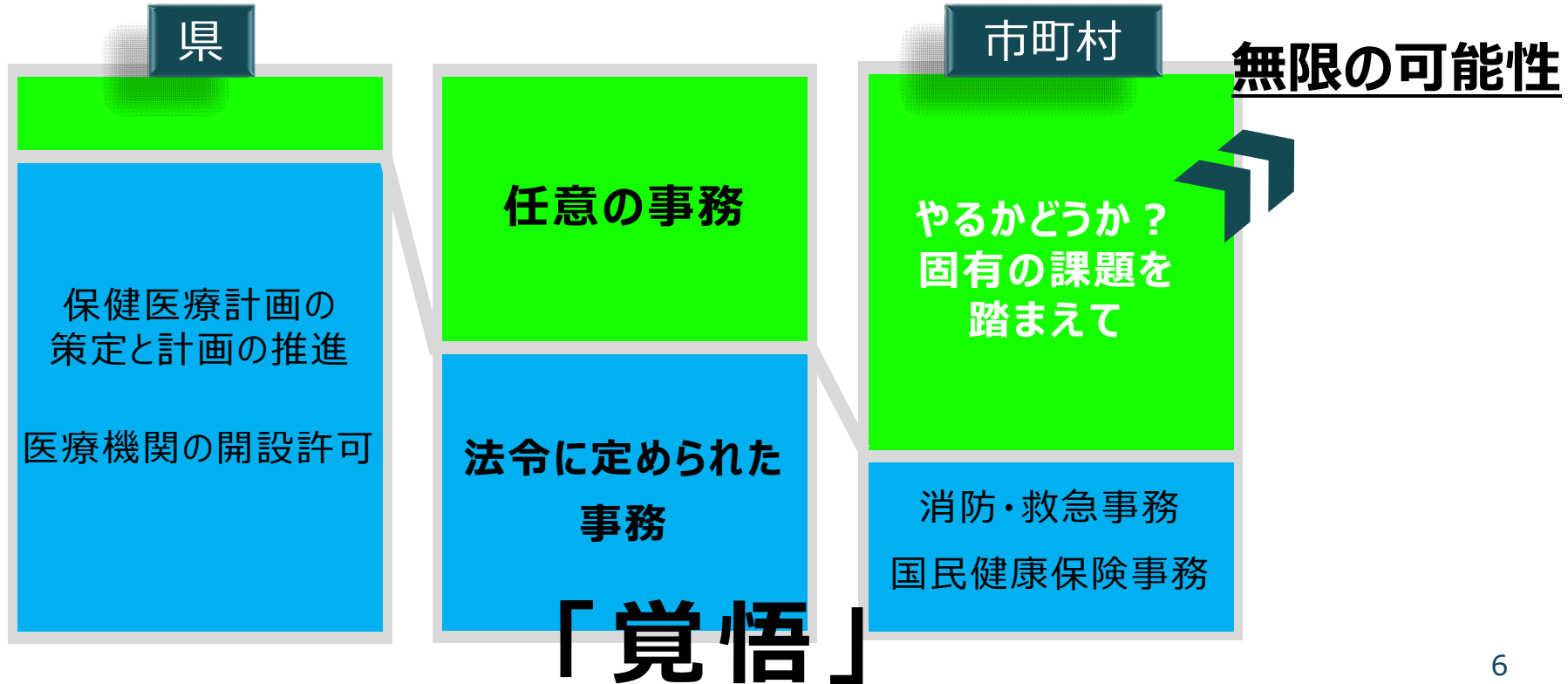


「本気」

1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために

① 地方自治体を知る（その2 自治事務の権限・義務から）

特に医療政策を担う県と市町村の違い



1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために

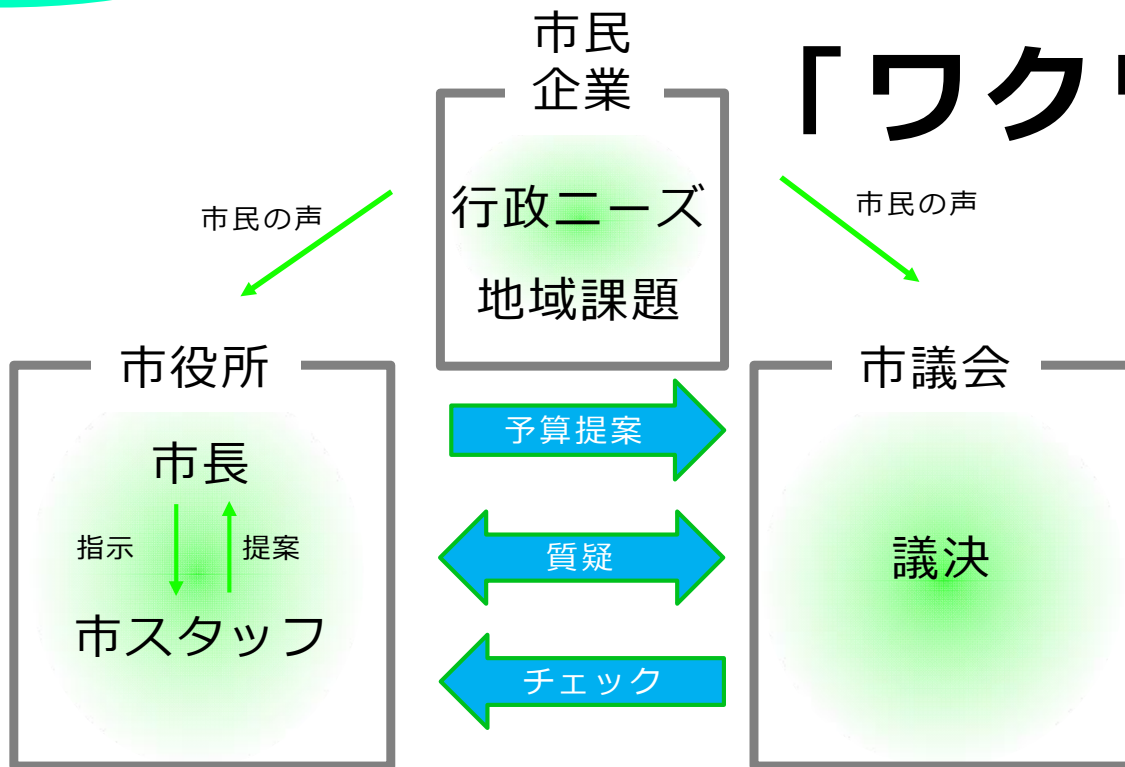
① 地方自治体を知る（その3 意思形成・決定スキームから）

公平・公正な視点

S D G s

財政的制約

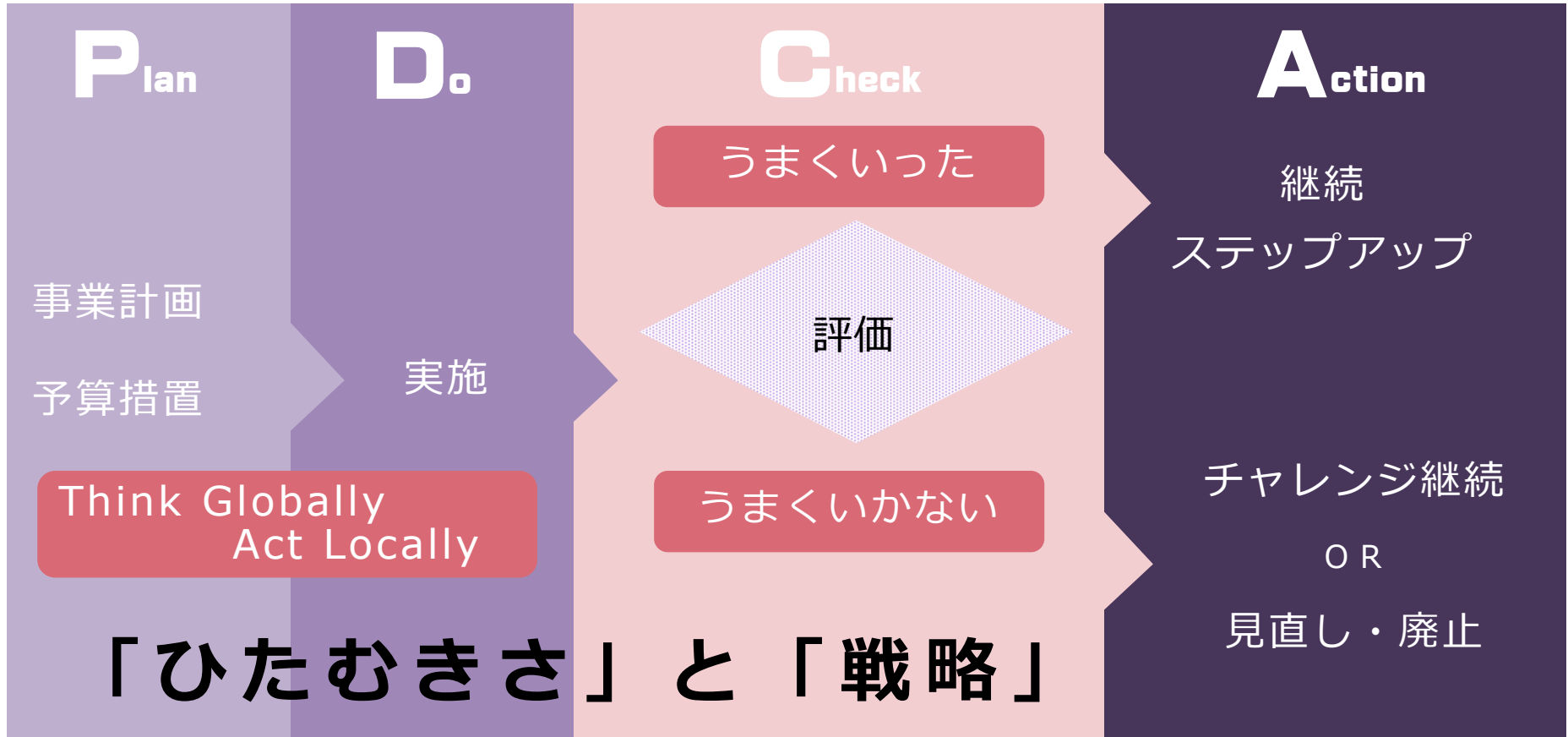
優先順位



「ワクワク感」

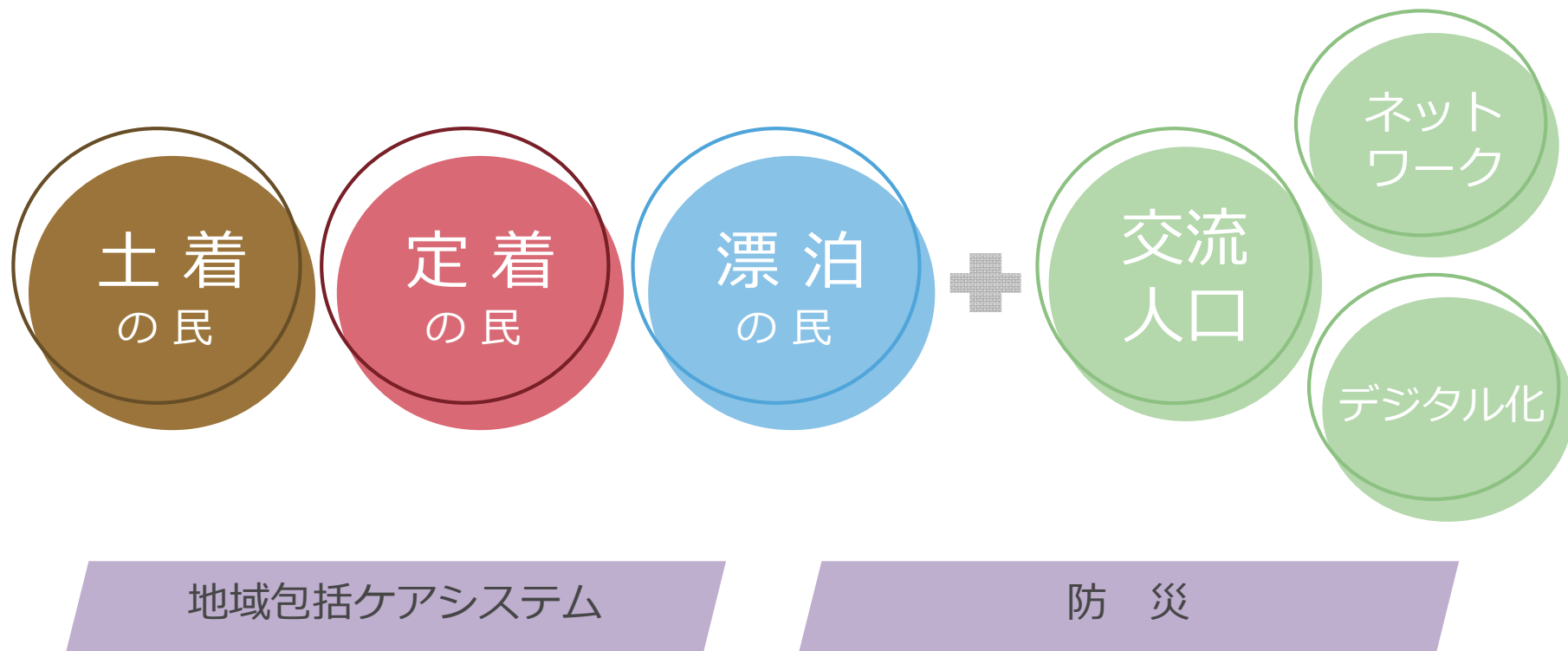
1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために

① 地方自治体を知る（その4 施策の実行から）



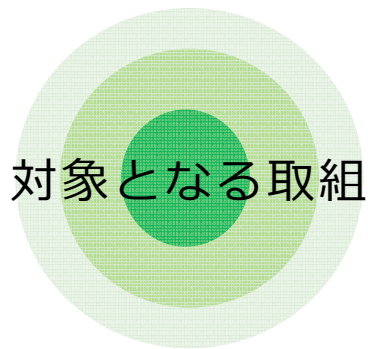
1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために

① 地方自治体を知る（その5 コミュニティ理論から）



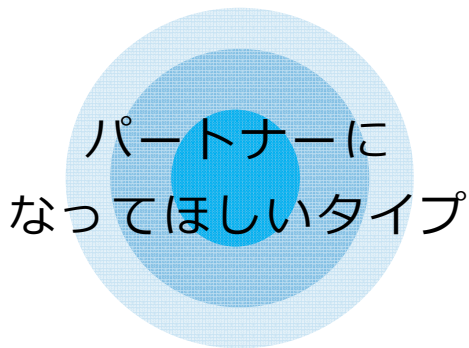
1 地方自治体とのコラボ効果の発揮のために

② コラボするパートナーとして期待されることは？



対象となる取組

地域の医療事情・市民や企業ニーズに沿うもの



パートナーに
なってほしいタイプ

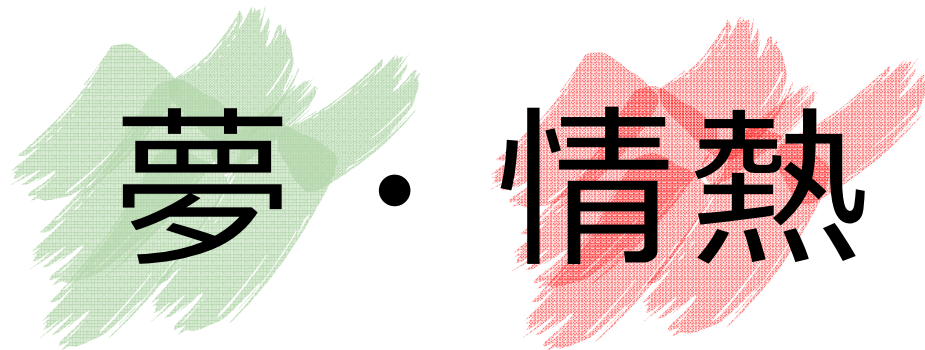
目標や課題を共有し、当事者として協働する人

2 本日参加している地方行政マンを代表して

① 思う存分活躍していただくために



最も大切なこと



応援したくなる

- ・ 挑戦意欲の高い人
- ・ 課題を共有してくれる人
- ・ 広い視野と柔軟な感性をもつ人

2 本日参加している地方行政マンを代表して

② 問題の所在は？

地域医療を志す人たち VS

潮流

- ・ 医療の地域格差・偏在の解消
- ・ 倫理・信頼などの社会的公正の価値観、共有の促進

VS

地域医療に
ネガティブな人たち

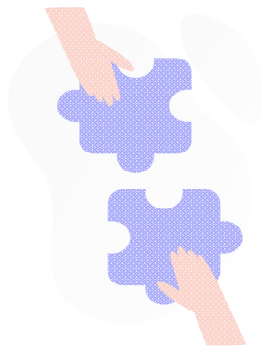
潮流

- ・ 地域偏在の一層の深刻化
- ・ 地域間競争や自己責任論への転嫁
- ・ 利己的利益優先の価値観・公共性義務を嫌う

2 本日参加している地方行政マンを代表して

③ ナショナルミニマムとしての医療システムの構築

すべての地域が一定の医療提供を保障される
社会の実現に向けた目標と価値観の共有



様々なステークホルダーの協働による
社会システムづくりの促進



Ⅲ 結びに

イザベラ・バードの時代から現代へ

明治の課題

- ・ 貧困
- ・ 不衛生
- ・ ひどい皮膚病
- ・ 目の病気
- ・ 医療の未発達

解決のための 社会の取組

- ・ 国民総生産増大
- ・ 生活環境改善
- ・ 医療技術の進歩
- ・ 国民皆保険制度構築

現代の課題

- ・ 少子高齢化社会
- ・ 医療の地域格差・医師の偏在という社会的矛盾

解決のための 社会の取組

- ・ 協働による社会システムづくり

産・官・学・市民
全員の貢献

DX化・グローバル化
全員参加とベクトルの一致
叡智の結集